

SPECIAL

INTERVIEW 02

コトリンゴ Kotringo

コトリンゴ、岐阜で初めてのライブを、「この世界の片隅に」の上映とともに!

映画『この世界の片隅に』では、オープニングテーマ曲「悲しくてやりきれない」など、映画の世界を優しく包み込んだコトリンゴ。映画ではサウンドトラック全体を制作し、その柔らかな歌声のほか、ピアノ演奏でも彼女独自の世界を感じることができます。岐阜で初めてのライブを映画の上映とともに味わう、またとないこの機会をお見逃しなく!

— コトリンゴさんの歌には、包み込まれるような心地よさを感じます。ご自身が作り出す音楽のあり方やテーマ、イメージなどはありますか?

ありがとうございます。テーマやイメージは、その時々作る曲によって違うので、自分のできる範囲で合わせるようにしています。あとは、自分自身の成長や気分にもとても左右されているかと思います。

— 映画『この世界の片隅に』の音楽を担当することになった経緯を教えてくださいませんか。

「この世界の片隅に」に関して申しますと、片瀬須直監督の前作「マイマイ新子と千年の魔法」のエンディングソングを作らせていただいたことと、その時ちょうど作っていたカバーアルバムを監督さんにお渡ししていて、その中に「悲しくてやりきれない」のカバーを入れていたことが、今回音楽に参加するきっかけになりました。

— この映画では、主題歌だけでなくサウンドトラック制作に携わりました。何か心がけたことがあれば教えてください。

監督さんとのやりとりを重ねて、監督さんの思い描く世界観をちゃんと表現できたら、と思っていました。出来るだけ生楽器でのアレンジを中心に考えました。

— 「日本アカデミー賞 優秀音楽賞」を受賞されるなど、コトリンゴさんの曲は、映画の世界観を決定づけるほどのインパクトがありました。「悲しくてやりきれない」が、はじめに監督さんの心にあったことがやはりとても大きいと思います。劇中で使用するかは当初は未定だったのですが、メロディや歌詞の力がシンプルなのにも大きく、だからずっと愛されている名曲なのだな、とあらためて再認識しました。

— 作品中の「たんぼぼ」、「みぎてのうた」はとても印象的でした。これらの曲を作曲する際に特に気を付けたことはありますか?

「たんぼぼ」は映画を観終わったあとに「教いが欲しい」、と監督さんが

仰っていたので、その思いを私なりに考えってみました。「みぎてのうた」は、原作の最後に出てくる「しあはせの手紙」が元になっています。画面ではセリフも言っているのですが、「きっとずずさんが失った右手の言葉だと思う」という監督さんの考察から、ずずさん達を優しく見守るような曲になればよいなと思って作りました。

— 映画『この世界の片隅に』を鑑賞される方はリピーターが多いと思います。音楽的な面からさらにこの作品を深く味わうことができるポイントなどがあれば教えてください。

先日、野外の上映会があり、野外での鑑賞もとてもよい雰囲気でした。音の聞こえ方もかわってきますし、空襲の場面はより怖く感じた、という話も伺いました。これから気持ちの良い季節になるので、野外の上映会のような機会もしあればまた少し違った感じ方をするかもしれませんね。

— 「ぎふアジア映画祭」で上映される『この世界の片隅に』の特別企画として、12月2日にミニライブが行われます。岐阜では初めてのライブですね。

初めての岐阜、大切な作品と一緒に来ることが出来てとても嬉しいです。ぜひ、遊びにいらしてください!

©Photo / 中川正子

12/2 SATURDAY [チケット発売中] 「この世界の片隅に」特別企画 コトリンゴLIVE

■会場 / 岐阜市文化センター 小劇場 ■開演 / 16:00

■料金 (税込) / 全席指定 ¥500 (前売・当日共)

■お問合せ / 岐阜市文化センター TEL.058-262-6200

※未就学児入場不可 ※詳細は<http://gifuasia.com>

